

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/06/03

株価の乱高下と米金融政策の行方が鍵に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	QE縮小時期を巡るの思惑	2 - 3
		予想レンジ: 97.00 ~ 104.00 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	BOC新総裁のスタンスは?	4 - 5
		予想レンジ: 94.30 ~ 99.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



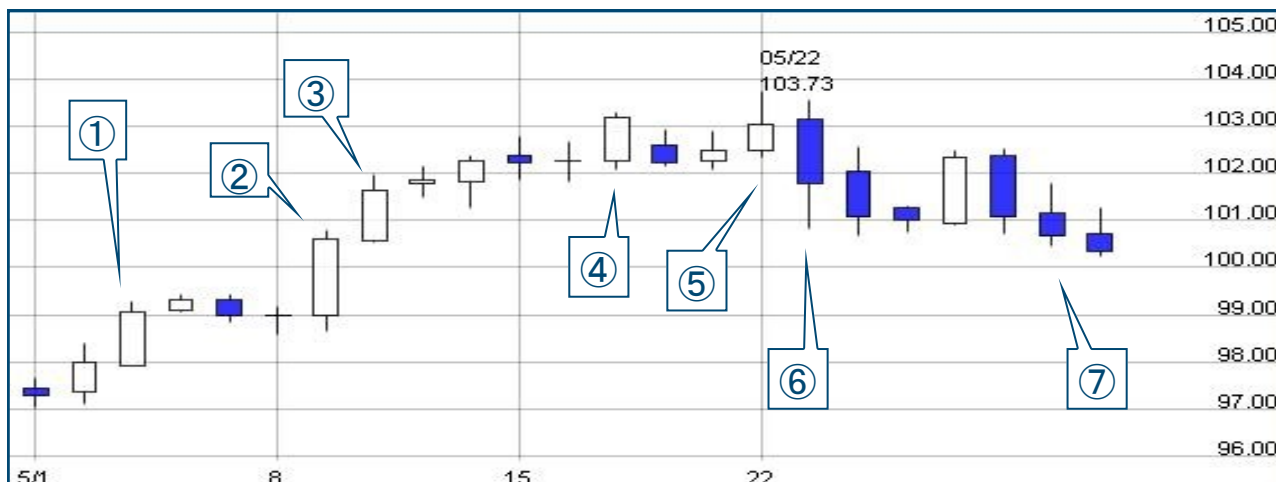
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	97.43円	103.73円	97.02円	100.35円



- ① 3日、米4月雇用統計が失業率7.5%（予想：7.6%）、非農業部門雇用者数が16.5万人増（予想：14.0万人増）と、市場予想よりも大幅に良好な結果となったことを受け、ドル/円は上昇した。
- ② 9日、米新規失業保険申請件数が32.3万件と予想（33.5万件）より大幅に良好だったことを受けて次第に米長期金利が上昇する中、モデル系ファンドと見られるまとまった規模のドル買いが入ると、ドル/円は急上昇。さらに、米30年債入札の参加者別落札額において海外中銀など大口投資家を含む「顧客の応札」の競争入札分に占める比率が38.8%と前回（31.4%）から大幅に上昇したことから海外からのドル需要の思惑が強まると、この流れに拍車。ドル/円は節目の100円を突破した。
- ③ 10日、前日からのドル高・円安の流れに加え、本邦の対外証券投資（中長期債）が2週連続で買い越しになったこと、欧州株高を受けたクロス円の上昇、バーナンキ米連邦準備制度理事会（FRB）議長が講演で金融・経済に言及しなかった事を受けた米長期金利の上昇などを背景にドル/円は上昇した。
- ④ 17日、米5月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値が83.7と予想（77.9）を大きく上回ったことを受けて米長期金利が上昇する中、ドル/円は103.30円まで値を伸ばした。
- ⑤ 22日、バーナンキFRB議長が議会証言で「時期尚早の引き締めは景気回復の鈍化や終了のリスクに」「雇用市場の見通しが著しく改善するまで債券購入を続ける」「最近の雇用の状況は幾分の改善を示しているが、雇用市場は全体として引き続き弱い」等と述べると、量的緩和（QE）の早期縮小・停止観測が後退し、ドル安・円高が進んだが、質疑応答中に同議長が「雇用市場の改善が継続すれば今後数回の会合で資産購入を縮小する可能性」と述べると急反発。その後発表された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨で「多くのメンバーはQEの縮小には一段の改善が必要だと認識」「複数のメンバーは経済成長が力強く持続的であれば、早ければ6月にも債券購入のペースを減少させる意欲を示した」と、様々な意見が交錯する内容だったが、よりタカ派的な意見に市場の注目が集まってQE早期縮小観測が強まると、NYダウ平均が下落。ドル/円はこれを受けて失速した。
- ⑥ 23日、中国の景況関連指標の弱い結果をきっかけに日経平均株価が大きく値を下げ、売りが売りを呼ぶ展開になる中、ドル/円も断続的にストップロス巻き込みながら100.83円まで値を下げた。
- ⑦ 30日、一部通信社が「年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は運用の弾力化を検討している」と報じたことで、夜間取引の日経平均先物が上昇すると、ドル/円は上昇。しかし、米新規失業保険申請件数が35.4万件（予想：34.0万件）、米第1四半期国内総生産（GDP）・改定値が前期比年率+2.4%（同：+2.5%）と予想より弱い結果となったことを受けて失速。米4月中古住宅販売成約も前月比+0.3%と予想（+1.5%）を大きく下回ったことでこの流れに拍車がかかった。

USD / JPY

今月のポイント

5月のドル/円相場は97.02～103.73円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.0%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初から中旬にかけては、徐々に米国の経済指標に良好な内容のものが目立つようになった上、米要人の発言の内容についても、比較的ハト派と思われていたFOMCメンバーに早期の量的緩和(QE)縮小に理解を示す発言をする向きが増えてきたことから、ドル高が進行。100円を突破し、22日には103.73円まで値を伸ばした。ただし、23日以降、日経平均株価が大きく値を崩す流れになると、相場がムードが一変。株価のボラティリティが上がる中でドル/円もそれを見ながら激しく上下動。乱高下を繰り返しながらも月末に向けて日経平均が下落基調で推移したことから、ドル/円も中旬までの上げ幅を大きく縮める展開となった。なお、22日には日銀の金融政策発表があったが、市場予想通りの政策据え置きで、反応は限られた。

6月のドル/円については、日本の金融政策が変化する公算は小さい。テーマとして最も注目されるのは米連邦公開市場委員会(FOMC)になるだろう。直近のFOMC議事録を見るに、6月のFOMCで量的緩和縮小が決定される可能性は高くないと見るが、米国の経済指標に良好なものが続けば、「6月緩和縮小期待」が先行し、ドル買いに拍車がかかる可能性がある。月初からの主要指標の結果に注目したい。なお、期待が高まった状態で、FOMCが何も決定しなかった場合、失望感からのドル売りが強まることもまた考えられる。ただし、いずれにせよ、日本株の乱高下が6月も続いてしまうと、米経済指標に対するドル/円の感応度が低下する可能性がある点にも留意はしておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ:97.00～104.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

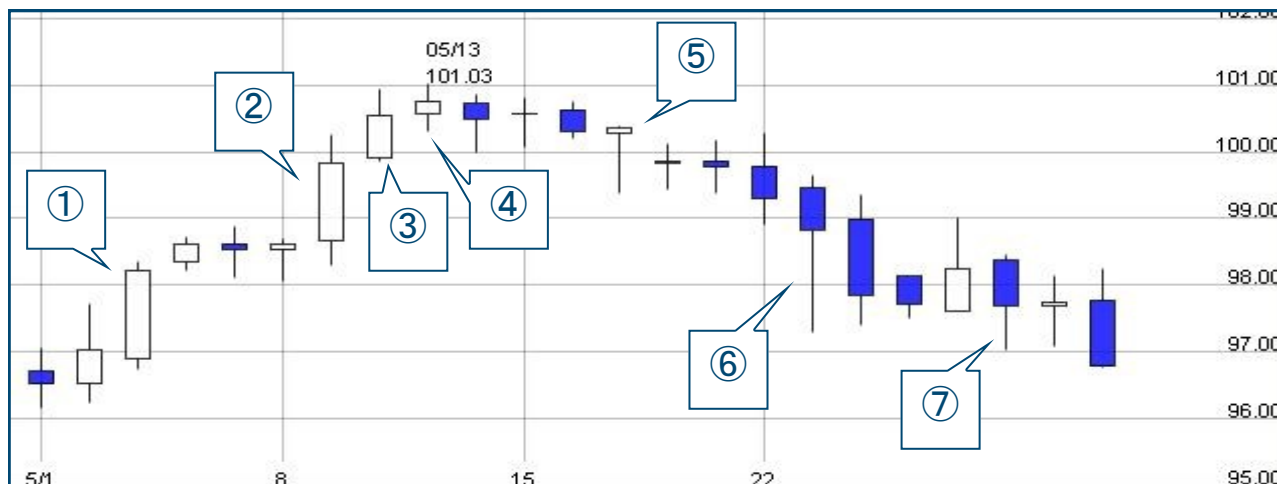
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/3(月)	5月米ISM製造業景況指数		6月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
6/4(火)	4月米貿易収支	6/17(月)	6月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
6/5(水)	5月米ADP全国雇用者数	6/18(火)	5月米消費者物価指数
	5月米ISM非製造業景況指数		5月米住宅着工件数
6/7(金)	5月米雇用統計	6/19(水)	5月日通関ベース貿易収支
6/10(月)	4月日経常収支		FOMC政策金利発表
	4月日貿易収支	6/20(木)	6月米フィラデルフィア連銀景況指数
	第1四半期日GDP・二次速報	6/25(火)	5月米耐久財受注
6/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)		6月米リッチモンド連銀製造業指数
6/12(水)	4月日機械受注		6月米消費者信頼感指数
6/13(木)	5月米小売売上高	6/27(木)	5月米PCEデフレーター
6/14(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (5月21・22日分)		第1四半期米GDP・確報値
	5月米鋳工業生産	6/28(金)	5月米シカゴ購買部協会景況指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	96.71円	101.03円	96.16円	96.78円



①	3日、米4月雇用統計の好結果を受けてドル高・円安が進んだ事につれた他、NYダウ平均が15000ドルの高位に上昇した事や原油価格が上昇した事を好感して98.35円まで値を上げた。
②	9日、米新規失業保険申請件数の好結果や、本邦機関投資家による外債投資活発化の思惑(米30年債入札で間接入札者比率が高かったため)からドル高・円安が進み、ドル/円が100円を突破すると、カナダ/円もつれ高となり100.25円まで上昇した。
③	10日、加4月雇用統計は失業率が予想通りの7.2%、雇用ネット変化は1.50万人増(予想:1.25万人増)となった。ドル/円の上昇につれて100.95円まで上昇していたカナダ/円は、雇用統計の発表を受けて100.10円台まで上げ幅を縮小した。
④	13日、前週末(10-11日)のG7で「為替レートを金融政策の目標としない」とのコミットメントが再確認された(議長であるオズボーン英財務相の発言より)事が、「円安容認」と受け止められ取引開始から円売りが優勢となった。さらに、米4月小売売上高が予想を上回り、ドル/円が上昇した事も追い風となり、カナダ/円は101.03円の高値までつれ高となった。
⑤	17日、米量的緩和第3弾の早期縮小の思惑から全般的にドル高が進行する中、米ドル/カナダドルの下落に引きずられる形で100.00円を割り込んで軟化。その後、加4月消費者物価指数が前月比-0.2%と予想(±0.0%)を下回ると、99.37円まで続落した。ただ、NYダウ平均が底堅く推移したほか、ドル/円が103円台に上伸した事から、カナダ/円は100.30円台まで急速に値を戻した。
⑥	23日、本邦10年債利回りが1%に上昇した事や中国5月HSBC製造業PMIが予想を下回った事を受けて株価が急急速。一時15900円台まで上昇していた日経平均株価が引けにかけて14400円台まで約1500円もの大幅下落となると、カナダ/円は98円を割り込んで下落した。さらに、欧州時間に入り、日経平均先物が大幅安となった事を受けて97.29円まで下値を切り下げた。しかし、その後は欧米株価や原油価格の堅調推移を受けて買い戻しが優勢となりNY市場終盤には99.02円まで値を戻した。
⑦	29日、日本株睨みの神経質な展開が続く中、夜間取引で日経平均先物が大幅安となると97円台半ばまで下落。カナダ中銀(BOC)が政策金利の据え置き(1.00%)を発表すると小幅に買い戻される場面も見られたが、BOCが発表した声明文の経済見通しに前回4月分から変更(上方修正)がなかった事から再び売りへと傾斜し、97.02円まで下値を切り下げた。

CAD/JPY

今月のポイント

5月のカナダ/円相場は96.16～101.03円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは、ほぼ横ばいとなった。上旬はドル/円が心理的節目の100円を突破して上昇した動きにつれて堅調に推移し、13日には2008年9月29日以来の高値となる101.03円を示現した。しかし、米国の量的緩和政策が早期に縮小に向かうとの思惑が高まる中、米ドル/カナダドルが上昇(米ドル高・カナダドル安)した事がカナダ/円の重石となり、伸び悩んだ。下旬に入ると、堅調推移が続いていた日経平均が突如として下落に転じ、円を買い戻す動きが活発化。結局、31日の終値は96.78円となり、1日の始値(96.71円)とほぼ同値の「往って来い」であった。

5月のカナダ/円がチャート上に描いた月足の形は、極端に「上ヒゲ」が長い「十字線」であり、4年9カ月ぶりの高値圏で出現したこの足型は下落転換のシグナルとも受け止められる。今年3月までの上値抵抗であった94円台半ば(2010年4月高値:94.45円、2013年2月高値:94.48円、2013年3月高値:94.35円)前後までの調整は覚悟しておく必要があるようだ。

材料面では、ポロズ新カナダ中銀(BOC)総裁の議会証言(6日)に注目しておきたい。英中銀(BOE)総裁に転じるカーニー前総裁に替わりBOCの指揮を執るポロズ新総裁が示す金融政策スタンスはカナダドル相場に大きな影響を与える事になる。「景気刺激策の幾分緩やかな巻き戻しが必要になる」としたBOC声明に対する新総裁の認識が最大の焦点となる。(神田)

(予想レンジ:94.30-99.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/3(月)	5月米ISM製造業景況指数		5月米小売売上高
6/4(火)	4月米貿易収支	6/14(金)	5月米鉱工業生産
6/5(水)	4月加住宅建設許可	6/18(火)	5月米住宅着工件数
	5月ISM非製造業景況指数	6/19(水)	4月加卸売上高
6/6(木)	ポロズ新BOC総裁議会証言		米FOMC政策金利発表
	5月加Ivey購買部協会景気指数	6/21	5月加消費者物価指数
6/7(金)	5月加雇用統計		4月加小売売上高
	5月米雇用統計	6/28	4月加GDP
6/10(月)	第1四半期本邦GDP・二次速報		
	4月本邦経常収支・貿易収支		
6/11	日銀金融政策決定会合(10日～発表)		
6/12(水)	5月加住宅着工件数		
6/13(木)	4月加新築住宅価格指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。